

目的：近年、衛生的で快適な生活に対する関心は、情報システムを通じた予防医学教育の成果と相まって非常に高まっている。家屋構造が気密になり冷暖房機が普及した結果、新たな問題が起きている。アレルギー性喘息と寝具とダニの問題である。家族が家の中で、最も長く過ごす場所は寝室で、アレルギー性喘息や鼻炎は第1義的には室内の床よりも、睡眠時に使用する寝具の管理が最重点課題である。本研究は、喘息発作に影響するダニの被害と防除を中心に家庭生活を総合的に把握することを目的とし、実践的研究を行った。

方法：新潟大学教育学部生のべ408名を対象とし、1989年6～11月までを研究期間とした。研究内容は①授業実践の教材開発②事前の意識調査③実践授業④望ましい家庭科の授業に対する諸要素に対する認識⑤教育的効果の順に調査・研究を行った。

結果：衛生的で快適な生活管理とダニに関する事前の意識調査結果を基に授業実践に提示する11種の教材を考案した。内訳は1)ダニ教材4種類、2)布団3、3)環境温湿度3、4)生活時間1であった。実践における教材の効果は、5段階尺度法で各教材とも「非常に有効であった」「やや有効であった」とするものが多く、教材別にみると布団日干し効果が平均評点4.5点で1位、2位は生きたダニを検鏡する、布団管理の相違によるダニ数が共に4.3点であった。望ましい家庭科の授業の諸要素20項目のうち、3点段落評点で示すと1位は「実践に結びつく」2150点で、2位「有効な教具」1920、3位「豊富な資料」837、4位「学習意欲を起こす」704、5位「納得させた」647点の順に評点が高く、受講生の97.8%が、この授業実践は効果があったと高く評価し、教科の本質をおさえていたと感想を述べた。